



〒104-0044  
東京都中央区明石町10-1  
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416  
TEL 5550-7043  
FAX 5550-7070  
E-mail: chapel@luke.ac.jp  
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



ロビーに耐火石展示ケースが設置されました

### 聖書を読む会

リモート (Zoom) で行っています。

- 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)
  - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)
- ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

### 巻頭メッセージ

## 祝福を願いながら関わる

## 礼拝案内

### 月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

### 水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜の礼拝は午前8時45分～

### 日曜日

感染予防のため休止になる場合があります。

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 旧館チャペル

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

## 巻頭メッセージ

## 祝福を願いながら関わる

司祭 シモン・ペテロ 上田憲明

現代は、祝福を願う技術がずいぶんと衰退している時代なのかもしれない。目に見える結果がでないところには祝福さえもなかったかのようにつまみつぶして「認識の癖」をいつのまにかわたしたちは学んでしまっています。しかも目に見える「利益」だけを祝福だと勘違いしてしまいやすいのです。もちろん「利益も祝福の一部分なので、なおさら混同しやすいのかもしれない」。

本来の意味での祝福は、自分が直接利益をもたらせないかもしれないことを認めるところから出発します。してあげたい事が完全にはしてあげられない事実を受け止める。祝福される人の遠い未来までも含め、そこに自分が既に存在していない可能性が高い事も受け止める。それでもなお、その人の幸せや最善を願い続ける気持ちを神さまにゆだねていくことが、祝福をするということなのではないかと思っています。

わたしたちが自分のベストをいかに尽くさなければならぬかの話をするのは、比較的たやすいでしょう。でも、実際は、わたしたちがベストを尽くすだけでは足りないことがよく起きます。いろんな人を巻き込んで、みんなで取り掛かって何とか処理できる時もあります。一方で、みん

なでしかも全力で当たったとしても、結局はどうしようもなかったという現実には打ちのめされることだつて、起こるのです。それでも、最善を望み、自分たちが精一杯にしていたなら、結果が出た後、いろいろと後悔したとしても、その過程そのものが、神さまの祝福の内にあつた、と悟る日がやがて来るのではないかと思います。

病氣や怪我を負った人は、元の状態に戻ろうというイメージで病院にやってくる人が多いです。でも、全く元と同じ状態に戻ることはないと思います。その人は病氣に罹る体験や怪我をする体験をしたのです。病氣や怪我が治ったとしても、病氣や怪我が持つ意味、治っていく過程で体験する意味を得た上で、日常の流れに戻っていくとしていきます。わたしたちは、そういう辛い体験であつたとしても、その意味を捉えなおすきっかけも与えられていて、神さまの祝福がそこにあることに、氣付くチャンスも与えられています。

祝福を願う技術を向上させるには、自分の人生にもたらされている祝福に目を留め、日々出会っていく人たちに祝福があるようにと願いながら関わる練習が必要とされているように思います。